

学位論文審査の要旨

		要 旨
学位申請者	松田 彩 【理学専攻 平成25年度生】	<p>本学位論文の審査は、5名の審査員（森寛敏准教授（主査）・鷹野景子教授（副査）・近藤敏啓教授（副査）・益田祐一教授・小林功佳教授）により行なわれ、提出論文の内容および口頭発表に関する質疑応答に基づき行われた。審査された博士論文は水素吸蔵性Pd/Ptナノ粒子の電子状態に関する理論的考察をまとめたものであり、審査は理論および関連する実験的背景の両観点から行った。</p> <p>まず博士論文の内容について、平成28年1月5日に第一回審査委員会を開催した。その結果、研究成果についての口頭試問に進むことができるクオリティを満たしていることを全員で確認した。続いて、同年1月21日に松田氏本人による口頭発表と質疑応答を行なった。この際、博士論文タイトルの「相対論的電子論」の文言と論文内容の繋がりが、General Introductionにおいて必ずしも明確に触れられていないこと、研究に用いた電子論の詳細が十分に説明されておらず追記が必要であること、および、本研究で得られた理論的成果がどのように今後材料科学分野に寄与し得るものであるかの記載が十分でないことが指摘された。これらの指摘に対する加筆修正を行なった修正原稿を予め確認した後、第三回審査委員会を同年2月12日に開催した。第三回審査委員会も松田氏本人による口頭発表形式で開催し、加筆修正部分の質疑応答を行なった。その結果、十分に博士論文の内容が修正されたことを審査委員会全会一致で確認、3月1日の最終審査会に進ませることを決定した。最終審査会では5名の各審査員から、博士論文の最終稿と口頭発表の内容について質疑応答が行なわれた。その結果、全ての質疑に対して適切な応答が得られ、審査員全員より、申請者の論文が博士論文として価値があり、最終試験結果は合格、博士（理学）（Ph.D in Chemistry）の学位を得るにふさわしい資格を有していると判断された。</p>
論文題目	相対論的電子論に基づくPd/Ptナノ粒子の水素吸蔵特性に関する考察	
審査委員	(主査) 准教授 森 寛敏	
	教授 鷹野 景子	
	教授 近藤 敏啓	
	教授 益田 祐一	
	教授 小林 功佳	
インターネット公表	<p>○ 学位論文の全文公表の可否（可・<input checked="" type="checkbox"/>否）</p> <p>○ 「否」の場合の理由</p> <p style="margin-left: 20px;">ア. 当該論文に立体形状による表現を含む</p> <p style="margin-left: 20px;">イ. 著作権や個人情報に係る制約がある</p> <p style="margin-left: 20px;">ウ. 出版刊行されている、もしくは予定されている</p> <p style="margin-left: 20px;"><input checked="" type="checkbox"/>エ. 学術ジャーナルへ掲載されている、もしくは予定されている</p> <p style="margin-left: 20px;">オ. 特許の申請がある、もしくは予定されている</p> <p>※ 本学学位規則第24条第4項に基づく学位論文全文のインターネット公表について</p>	

